



米子市福市考古資料館通信

第14号

2024年9月



企画展2「縄文時代の米子 -豊かな森と海に暮らした米子の縄文人たち-」を開催します

米子市福市考古資料館では、10月17日(木)から企画展2「縄文時代の米子 -豊かな森と海に暮らした米子の縄文人たち-」を開催します。

米子の縄文人の生活や活動などの様子を紹介します。

併せて、令和4年度に伯耆町根雨原で実施した根雨原土手下夕遺跡の発掘調査の成果を速報します。

会期は、令和7年2月10日(月)までとなっておりますので、ぜひ、この機会にご観覧ください。

米子市福市考古資料館 企画展2

縄文時代の米子

—豊かな森と海に暮らした米子の縄文人たち—

開催期間
令和6年10月17日(木)
～令和7年2月10日(月)

会場
米子市福市考古資料館

開館時間
9:30～17:00
(最終入館 16:30)



上福万遺跡出土の縄文土器

同時開催
伯耆町 根雨原土手下夕遺跡
発掘調査速報展

令和4年度に発掘調査を実施した、伯耆町根雨原の根雨原土手下夕遺跡の発掘調査の成果を速報します。

休館日

毎週火曜日
11/6(水)
12/29(月)～1/3(金)
1/15(水)



集石遺構

開館のお知らせ

- 開館時間 9:30～17:00 (最終入館16:30)
- 観覧料 無 料
- 休館日 毎週火曜日、祝日の翌日、年末年始(12月29日～1月3日)

展示品紹介

いしぼうちょう

石包丁（目久美遺跡）

展示室では、目久美遺跡から出土した弥生時代前期～中期（約 2800～2000 年前）の花崗岩（かこうがん）製の石包丁（いしぼうちょう）を展示しています。

石包丁は、稲作とともに朝鮮半島から伝わった磨製石器です。長さ 10～20 cm、幅 3～5 cm の薄い板状で、手のひらに収まるような大きさとなっており、長方形、紡錘形、半月形を呈する扁平な形状をしています。一方の長辺に刃がついており、刃は両面から研ぎだしたもの（両刃）と片面だけつけたもの（片刃）があります。側面には 1 つまたは 2 つの穴があり、これに紐を通して指にかけ、稲の穂を摘み取るのに使いました。

石包丁は、「包丁」という名がついていますが、調理に使われたものではなく、明治時代の研究者たちがエスキモーが使っていた石製の調理用ナイフに形状が似ていたことから「石包丁」と呼ばれるようになり、現在でもそのまま名称が使われています。

石包丁が穂摘み具であると判明したのは、中国北部などで鉄製の石包丁と同じ形状のものでアワの穂を摘み取っていたことと、アイヌ民族が貝製の石包丁と同じ形状のものでヒエの穂を摘み取っていたことから、稲穂を摘み取る道具として考えられるようになりました。

弥生時代には、現在とは異なり、稲を収穫するのに根元から刈り取るのではなく、稲穂だけを摘み取っていました。この当時の稲は同じ水田でも品種が異なる稲が栽培され、そのため、稲が実る時期にバラつきがあり、収穫に適した稲穂だけを選別して摘み取っていたと考えられています。



石包丁



石包丁による稲穂の摘み取り

発行者 米子市福市考古資料館（指定管理者 一財・米子市文化財団）

住所 〒683-0011 米子市福市461-20番地

電話・fax 0859-26-3784（同番号）

休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始（12/29～1/3）